

【人間開発学部】

小論文

解答例(解答のポイント)

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

問1

体育の授業に用いられる笛は、旋律を奏でる笛ではなく、「ピーッ」と鳴るだけの警笛としての笛であり、時間の流れのなかの一点を浮き出させる役割を果たすものとして述べられている。教師は笛を吹くことで号令をかけることもできる。言葉の方が意味は明確な場合もあるが、それでも笛が用いられるのは、人間の声よりも高く鋭く、遠くまでよく通り、注意を喚起できるからである。さらに笛の音は、単に音が聞こえるのではなく、身体全体に行きわたらせるような効果を与え、身体にさっと線を引かれたような感覚によって、それまでの行動に示された意志の流れを一瞬の間に停止させ、笛を吹いた人の指示を待たせる力を持つものと述べられている。

問2

(賛成)

私は、体育の授業で教師が笛を使用することに賛成である。その理由は、授業の効率化や安全性の向上につながると考えるからである。

笛は、教師の声よりも高音で注意を引きやすく、その音が遠くまで響くため、広い場所でも聞こえやすいという特徴がある。体育の授業は、グラウンドや体育館など、広い教場で行われる。そのため、教師の声が生徒に聞こえにくい場合がある。このような状況でも、笛の音は瞬時に生徒の注意を引きつけることができる。つまり、教師の声だけでは、実技を中断して説明したり指示したりすることが難しい状況でも、笛を使うことでそれらが容易になる。このことは、授業を円滑かつ効率よく進めることにつながる。さらに、生徒が説明や指示に注意を向けやすくなることで理解度が高ま

り、学習効果も向上すると考える。

また、体育の授業では、予期せぬ事故が起こり得る。例えば、生徒が実技に夢中で取り組んでいると、周囲の状況を察知しにくくなり、生徒同士が衝突してしまう危険がある。このような状況でも、笛の音は生徒に危険を知らせることに効果的であり、教師が笛を吹いて注意喚起や行動の制御を行うことで、事故を未然に防ぐことができる。このことは、安心して実技に取り組むことができる環境づくりにつながり、事故防止だけでなく、生徒が実技に集中できるようになることで、学習効果も高まると考える。

もちろん、笛を使用することにより、笛の多用による実技への集中力の低下や、生徒への安全教育としての効果の低下を招くという考えもあるだろう。しかし、教師が使い方に気をつければ、笛を使用するメリットの方が大きいと考える。

以上より、私は、体育の授業で笛を使用することに賛成である。

(反対)

私は、体育の授業で教師が笛を使用することに反対である。その理由は、笛を使用することで生徒の自主性や主体性の低下、体育が持つ安全教育の効果の低下につながると考えるからである。

教師が体育の授業で笛を使用する目的には、説明や指示をする際の合図をすることや、危険を生徒に知らせ、事故を未然に防ぐことなどが挙げられる。体育の授業は、グラウンドや体育館など、広い教場で行われる。そのため、教師の声が生徒に聞こえづらい場合がある。このことにより、実技中の指示が生徒に届かなかったり、生徒同士の衝突などの危険を察知しても注意が届かなかったりすることもあるだろう。このような場面では、笛は確かにその効果を発揮するかもしれない。

しかし、進行の合図や指示、そして安全確保を笛によって行うことで、生徒が笛任せになり、自主的、主体的に状況を把握し、判断することができなくなるのではないかと思われる。私は体育の授業で、教師の声が聞こえづらいからこそ、うまく聞き取れるように工夫をしたり、危険な状況があるからこそ、安全に実技ができるように工夫をしたりすることが重要なのではないかと考える。それは社会に出たときに、そのような経験が役に立つと考えるからだ。一般社会では、必要以上に個人の不都合に対応してくれるわけではない。また、危険な場面でも、周囲が分かりやすい方法で知らせしてくれるわけではない。したがって、体育の授業で、自主的、主体的に考え、判断し工夫することや、自分や周囲の安全を自ら考えるとといった経験を積むことは重要なことであり、体育の重要な教育的効果の一つだと考える。

以上のことから、私は、体育の授業で教師が笛を使用することに反対である。